

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.78

2011.9.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.78 目次

大阪での野生動物リハビリテーター養成奮闘記	2-5
「小笠原諸島」の世界自然遺産登録が決定ーWRV 会員の協力に感謝ー	6-7
<神奈川支部活動報告> 子ども向け夏休み野生動物救護一日体験	8
野生動物救護獣医師協会 講習会のご案内	9
平成 23 年度「油等汚染事故対策水鳥救護研修」実施案内	10
(短評)世界自然遺産としての小笠原諸島の今後	11
寄付のお礼	12
事務局日誌	12

大阪での野生動物リハビリーター養成奮闘記

(NPO) 野鳥の病院 代表理事

WRV大阪支部長 中津 賞

大阪府で行われている現在の保護飼養ボランティア制度においては、一次治療の終わった野生動物の一部は、保護飼養ボランティアに預託されて、看護を受け、獣医師の許可を得て放野していました。一方、行政職員は内規や条例で救護対象外の野生動物(外観上異常のない個体、巣立ち直後の若鳥等)の救護要請があった場合には出動できないでいます。こうした事態を打開するために、またボランティアの方々に積極的に救護活動に参加していただく為に、行政から野生動物の捕獲と収容の許可を得て現場出動し、収容、救急処置をして、救護ドクターに運ぶリハビリーター制度を新たに確立したい…。その為には現場で使える救護技術を習得する必要があります。この養成講座では、あらゆる状況を想定して対応できるボランティア20名を、年末年始の5ヶ月掛けて養成したいと計画しました。

そこでホームページ等を通じて、一般から募集しましたところ、現職の動物看護師、獣医師、獣医学科学生、動物看護専門学校生、一般市民の応募が有りました。その養成課程の詳細は以下の通りです。

◆ I : 5つの講習会 ◆

1. 傷病鳥獣保護飼養ボランティア養成講習会：ペピイ動物看護専門学校(会場)
(共催：大阪府)
2. 野鳥の救護技術講習会(中級)：ペピイ動物看護専門学校
3. 油汚染水鳥救護技術講習会：ペピイ動物看護専門学校
※WRV規定の単位を満たす油汚染事故現場リーダー養成講習会です。
(土/日の2日連続講座) (共催：大阪府)
4. ビーチセンサス講習会：大阪南港野鳥園
油汚染事故時の被害動物の海岸線に於ける探索法
5. 獣医師法および関連法規、電話対応とコミュニケーションマナー
講師：ペピイ動物看護専門学校専属講師 坂上 緑氏

◆ II : 実習 ◆

*実習は50分1単位を、20単位修得することから構成されています。

実習は中津動物病院で行いました。一回の出席で3単位程度可能ですが、時期によって対象動物の存否により、実施できない項目もあったため、それぞれ都合の良い日を選んで出席することのできる、「自由出席制」の形式をとることとしました。

具体的な実習項目については、およそ次の通りです。

番号	実習項目	実習内容
1	捕獲と輸送	ヒトの安全確保と確実な捕獲
2	動物種の鑑別	食性との関連性を理解
3	安全な保定法	ワシタカ、サギ、鳴禽類
4	身体検査法	視診、聴診、触診、打診
5	現場での応急処置法	消毒法、創傷縫合法
6	現場での稟告聴取法	原因究明に繋がる聴取法
7	安全な輸送法	ケージの大きさ、温度管理
8	容態の安定化法	加温、電解質とカロリー補給
9	消化器／呼吸器の構造	呼吸を妨げない保定の理解
10	食性と餌の選択	餌の多様性の確保
11	流動食の選択と調整法	食性に合った流動食の選択
12	鳥種別強制給餌法	糞便検査、給餌効果の判定
13	伝染病と防護法	感染症と感染防護の理解
14	伝染病検査と採材法	鳥インフルと西ナイル病
15	骨折の症状と固定法	骨折部位による症状の変化と固定法
16	リハビリテーション技術	翼と脚のリハビリテーション
17	日本産カメの管理法	イシガメ、クサガメ
18	保護飼養期間	1ヶ月以内という制限の理解
19	保護飼養カルテ記載要領	再発防止に繋げるためには
20	放鳥獣時の身体検査要領	標準体重の理解と飛行能力



強制給餌法の実習



保定と翼下静脈からの採血実習

●野生動物リハビリテーター認定の要件

認定にあたっては次の要件をすべて満たしていることが必要となります。

(ア)大阪府在住であり、18歳以上であること。

(イ)講習会及び実習をすべて修了し、最終試験に合格(80点以上)していること。

(ウ)野生動物の保護に関心が高く、責任を持って誠実に救護活動が行えること。

(エ)鳥獣保護法、獣医師法等の関連法令を遵守できること。

(オ)自宅等で看護、野生復帰訓練する場合には、近隣住民に対し悪臭、騒音等の被害を発生させる恐れが無いよう、飼養すること。

(カ)ボランティア保険に加入すること。

修了者(合格者)には、野生動物リハビリテーターの認定証を(NPO)野鳥の病院から授与し、その後、野生動物救護等に関わる活動に、積極的に従事してもらうことになります。



以上のように一連の養成課程を実施してみて、特に反省すべき側面として思い浮かぶのは、やはり実習に関してです。実習については、20名×20時間=400時間の自由出席制を採用して受講生の便宜を図るようにしました。具体的には中津動物病院の昼休みを利用して、14時から17時までに一人当たり3項目の実習を行いました。また、病院の看護師が教える事の出来る項目については、時間当たり800円の手当を支払いました。1時間3名で実習を行うことが出来れば費用対効果は高いので、出来るだけ受講生の実習項目を調整し、その結果、前半は効率よく実習をこなせました。しかし履修がすすんでくると受講生一人に担当者1名という実習が増えて来ました。この点を次回にはなんとか改善したいと考えています。10月から3月までは結局全く昼休みがなくなってしまう、大変疲れる仕事になってしまいました。3月末時点で数名の未修得者も居りましたので、4月に入っても実習は続くことになりました。

しかし、ご存知の通り4月には動物病院の最繁忙期に入りますので、さすがに5月末になっても4名の未修得者が居りましたが、一応今期はこれで終了としました。彼らには、今秋開催予定の第2回養成講座において、同様の実習に参加頂く予定にしていますが、あるいはこれを講習会形式にして、一日5項目の実習を一挙にこなしてもらうのも一方法かと考えてもいます。この形式ですと、5項目×実習講習会4回で修了できます。

なお、上記の通りこの秋もリハビリテーター養成講座を開催しますので、興味のある方は是非参加して下さい。ホームページに情報を記載しますので、積極的なご応募を御願い致します。

※以下は実習で使用した「身体検査法」に関する資料ですので参考のため掲載します。

<身体検査法(聴診、打診、触診、視診)>

いかなる原因があつて、鳥が保護を必要とする状況になっているかを知る必要がある。特殊な器具は一切必要がなく、ヒトの五感を総動員する事で確かな情報が得られる。カルテに詳細に記載しておく。

1 視診

タオルをとって、鳥の全体を見渡して異常な形態と機能(翼の動かし方、歩き方)、着色、出血の有無を調べる。骨折、外傷、羽毛の損傷、呼吸の様子を観察。嘴を開けて口内も観察する事は大切である。また耳孔からの出血、眼球結膜の出血の有無も見

る事。脚はよく体重を支えているか。翼は下垂してないか、逆に先端が上がっていないか。全ての羽毛が揃っているか。糞は排泄しているか。

尿のみの排泄か。白い虹彩を持つ鳥では瞳孔の大きさを左右で比べて、中位で、同じ大きさなら脳圧は正常である事を示している。両方とも小さくなっている時は頭部打撲等で脳圧が上昇しているので要注意である。体に釣り糸が巻き付いていないか。口から釣り糸が出ていないか。ハムシ、ダニ等の外部寄生虫にも注意。行動から神経症状の有無を見る(右旋回を続ける、眼球震盪等)。

2 触診

体を静かに撫でると、皮下に空気が漏れ出て貯まっている事がある。これは皮下気腫で、上腕骨、肩甲骨、鎖骨、鳥口骨、椎骨が外力で小さな亀裂を生じて、中に含む空気が皮下に移動している状態で、漏れ出る量が多い時は体全体がボールの様に丸く膨らむ。他の骨折では本来動かない部位で屈曲する。骨折部位では骨同士が擦れ合う振動が触知できる。またその時に激しい痛みを訴える。頭部の触診で頭骸骨の陥没が触知出来る事がある。鳥の腹は竜骨突起の下端から始まる。柔らかで、触知できる範囲は小さいのが普通で、大きい腹は異常である。その原因は肝臓肥大、内臓の腫瘍、卵管の異常、あるいは卵の停滞であるが野鳥では極めて稀である。

大胸筋を触ると、通常は竜骨突起に盛り上がる様に発達しているが、十分に餌を取れていないときは、大胸筋は痩せて尖った胸になる。保護中の体重管理は重要である。

3 打診

左手の人差し指と中指を揃えて鳥の体に当て、右手の同じ指を曲げてこの指を軽く叩くと音が出るから、この音の反響音を聞き取る。体の中に気体がある時は鼓音といって、響く音が聴取できる。反対に水が貯留している時は濁音といって、音の反響が悪く、吸い込まれる様な響きの少ない音である。また左手を腹の片側に当て、右手で体側の腹壁を叩くと、その波動が左手に届く時は腹に液体(腹水)が貯留している事を示している。

4 聴診

鳥の呼吸音を聴取する時は鳴禽類の様な小型の鳥では肩甲骨間に耳を当てるとよく呼吸音が聞こえる。ラッセル(気管内で分泌物が気流で振動するプチプチという音)が聞こえる事もある。骨折部位では骨が擦れ合う音も聴取できる。

5 嗅覚

創傷の腐敗の程度が分る。腐敗は鳥では高体温の為に化膿よりも容易に起こる。腐敗産物の体内への吸収は致命的である。

○視診の練習(実習)：ハトを使って、異常所見の発見

触診の練習。触診するには良質な保定が必要。色々の体位での保定法の練習。タオルを使って保定する。ハトとカモの総排泄孔、口内の観察(後鼻孔、気管の入り口)呼吸困難を呈している鳥がいれば、その様子を観察し、開嘴呼吸、肩呼吸、尾翼呼吸の理解。ハトで小さな腹が健康であることを触って理解する。もし入院鳥で大きな腹のものが居れば見せる。セキセイインコで背中に耳を当てて、心臓の鼓動を聞かせる。ハトの肩甲骨間で、聴診器による心音の聴取。

「小笠原諸島」の世界自然遺産登録が決定
WRV 会員の協力に感謝

(社)東京都獣医師会副会長・WRV 理事
小 松 泰 史

2011年6月19日(日)からフランスのパリで開催されていたユネスコの第35回世界遺産委員会において、「小笠原諸島」の審査が行われ、6月24日深夜(日本時間)、世界遺産一覧表へ記載することが決定され、世界遺産委員会最終日(6月29日)に「世界自然遺産」として正式に記載登録されました。

アカガシラカラスバトなどの鳥類は、小笠原諸島が海洋島のため、翼を持たない陸上動物が存在しない中で進化したため、警戒心がなく、地上に降りて餌を歩きながら食べる習性があります。このため人とともに移り住み、飼い主に捨てられた後、野生化の一途をたどった「最強の外来種」であるネコのためにその多くが捕食されました。

(社)東京都獣医師会は、2005年5月から自然保護団体、環境省、東京都などと連携して小笠原諸島の希少鳥類保護のため、捕獲された野生化したネコを殺処分することなく、その命を里親までリレーしようと活動してきました。

母島南崎で2005年5月に大型海鳥のカツオドリを捕食しているところを監視カメラで撮影され、1ヶ月後に捕獲された「マイケル」(写真)を皮切りに、2011年9月までに、235匹の野生化したネコが小笠原丸に乗って竹芝棧橋に到着、東京都獣医師会所属の108動物病院に馴化のため搬送されました。病院に搬送された野生化したネコは、およそ1ヶ月から3ヶ月の馴化の後、家ネコとして約40%が新たな飼い主宅、30%が院長、スタッフの自宅で家族の一員になりました。残りの30%ほどが現在、病院で里親募集あるいは馴化中です。搬送された108動物病院の中には、WRV会員病院も多く含まれ、継続してご協力をいただいております。



カツオドリを捕食したマイケル



捕獲されたマイケル

小笠原諸島で野生化するネコをこれ以上増やさないために、東京都獣医師会では2007年から年に1回、「小笠原動物医療派遣団」を現地に派遣しています。昨年度の第3次小笠原動

物医療派遣団派遣（11月13日から25日まで）では、75匹の飼いネコに、マイクロチップの装着、避妊手術、去勢手術、治療などを行いました。また昨年は島での動物適正飼養普及の観点から、犬の飼い主向けに「しつけの実際」、ネコの飼い主向けに「ネコの栄養」の講習会を行い、島民の要望により64匹の犬の治療、マイクロチップの装着を行いました。

これらのことは、昨年のユネスコの小笠原現地視察団による調査で「希少鳥類の繁殖が確保されつつある」とともにネコ対策は「人道的で、素晴らしい」との高い評価を得ました。東京都獣医師会のこうした取り組みが、今回の小笠原諸島の世界自然遺産登録に少なからず貢献できたものと、誇りに思うとともに、WRV会員のご協力に深く感謝申し上げます。



馴化後のマイケル



筆者に抱かれるマイケル

2010年12月、小笠原自然文化研究所から①母島南崎ではオナガミズナギドリの繁殖地が復活(野生化ネコ対策以前の地下巣穴0からここ数年は、年10~20ヶ所、繁殖羽数は毎年3~5羽確認)、②母島南崎ではカツオドリの繁殖はないが、集団で地上に固まって繁殖する習性の鳥のため、2011年から模型のデコイをおいて誘導する計画、③父島東平ではアカガシラカラスバトの繁殖地が維持されている、との報告がありました。

なお、今回の「小笠原諸島」世界自然遺産登録に際して、ユネスコからの要望事項として、侵略的外来種対策を継続すること、観光や諸島へのアクセスなど、すべてのインフラ開発について、事前に厳格な環境影響評価を確実に実施することの2点があげられています。前者に関係する野生化したネコの捕獲馴化対策を継続するため、今後ともWRV会員の更なるご協力をお願いいたします。

<神奈川支部活動報告> 子ども向け夏休み野生動物救護一日体験

WRV 副会長／WRV 神奈川支部事務局長
皆 川 康 雄

WRV 神奈川支部が子ども向け夏休み野生動物救護一日体験を行うようになって 6 年目になりました。支部で養成している神奈川県野生動物リハビリテーターの活動の一環として始めたものでありますが、今では、救護活動をこうした環境教育へと手を広げられるのもリハビリテーターの協力があることになりつつあります。

さて、今年度は神奈川県が主催する「かながわサイエンスサマー」に登録（県内 113 機関が登録）して実施しましたので、以下にご報告します。

●タイトル「野生動物救護一日ボランティア体験」

対象は小学 4 年生～高校生まで。7 月 30 日～8 月 4 日（6 日間）一日 5 名ずつ（総定員 30 名）。神奈川支部事務局を置く野生動物ボランティアセンターにて実施しました。

体験内容に「傷ついた野生動物の世話やリハビリをして野生復帰させるボランティアの体験」と記して、7 月 1 日～15 日まで募集したところ、予想をはるかに超える 386 名（小学生 327、中学生 44、高校生 14、成人 1）の応募がありました。動物を助ける手伝いをしたいという純粋な気持ちや将来動物に関わる仕事に就きたいという夢への第一歩として応募したようでした。おかげさまで倍率 10 倍以上と超人気のイベントの一つとなりました。

実際の体験は、皆さんご存知の通り、この時期はヒナの保護の時期でありますので、さし餌が中心となります。かわいらしいヒナへのさし餌は、子どもたちに強烈な印象を与えます。その後このヒナがなぜセンターに連れてこられたのか、つまり“誤認保護”について説明をします。子どもたちの表情は一転。罪悪感のようなものがこみあげてくるのでしょうか。中には、涙を浮かべる子さえいます。ヒナ以外にも飼い猫に捕らえられたヒヨドリ、交通事故にあったドバト、油汚染洗浄訓練用のアイガモ……。世話をしながらこのセンターにいる理由を話していきます。そのうち、子どもたちはあることに気付いていきます。そうです、『人が野生動物を傷つけている』ということに。

これが、この体験の最大のねらいです。

この体験を通して、「身近な野生動物を意識して、私たちはどのように暮らしたらいいのか」を子どもなりに考える機会になればと思っています。そして大人になってもその気持ちを持ち続けてくれれば、きっとより良い社会になっていくと信じています。

なお、この様子は NHK「おはよう日本」（8 月 5 日 7 時 45 分～関東地区）にて放送されました。また、神奈川新聞からも取材を受け、『幼い野鳥の誤認保護 生態に理解を』と題して 8 月 21 日に掲載されました。



体験の様子（ヒヨドリのヒナにさし餌）



野生動物救護獣医師協会講習会のご案内



特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会 東京都支部
共 催 : 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

会 場 : ホテル ローズガーデン新宿 ローズルーム

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-1-3 <http://www.hotel-rosegarden.jp/index.html>
(TEL) 03 - 3360 - 1533 (FAX) 03 - 3360 - 1633

日 時 : 2011年12月10日(土) (受付: 16:30~16:55)

17:00~17:15 開会あいさつ、来賓紹介

17:15~18:55 講演「ウサギと両生爬虫類の臨床」

(NPO)野生動物救護獣医師協会 理事

田園調布動物病院 院長 田 向 健 一

19:00~19:30 講演「野鳥における高病原性インフルエンザの調査・対応について」

環境省野生生物課鳥獣保護業務室 鳥獣専門官(獣医師)

根 上 泰 子

19:30~19:50 関係報告 等

20:00~21:30 懇親会 (別室: 事前申し込み者のみとなります)

*申込み方法 後日、案内をWRV ホームページ (<http://www.wrvj.org>) に掲載いたしますので、そこから申込用紙をダウンロードできるようにいたします。

用紙に必要事項を記入の上、郵便振込にて参加費(懇親会参加の場合は合計額)をお振込ください。参加費の振込確認をもって、参加申し込み受付とさせていただきます。

振込口座 00130-8-607137 口座名義 野生動物救護獣医師協会

*定 員 60名

*参加費	東京都指定病院(スタッフ含む)、獣医学生	無 料
	WRV 正会員、ボランティア会員、東京都鳥獣保護員	2,000 円(当日入会でもOK)
	会員外、その他	3,000 円

(懇親会参加の場合、別途2,000円がかかります。)

*申込期限 11月28日(月)(定員になり次第締め切ります)

*問い合わせ先 (NPO法人)野生動物救護獣医師協会 事務局 箕輪
TEL 042-529-1279 FAX 042-526-2556

平成 23 年度「油等汚染事故対策水鳥救護研修」実施案内

目 的：油等汚染事故発生時に、野生鳥獣保護の観点から迅速かつ的確に対応できるよう、油等に汚染された水鳥の救護等に関する共通認識と技術を習得することを目的とする。

日 程：第 1 回現場救護リーダー向け 平成 23 年 10 月 18 日（火）、19 日（水）
第 2 回現場救護リーダー向け 平成 23 年 12 月 6 日（火）、7 日（水）
第 3 回鳥獣保護行政担当者向け 平成 24 年 1 月 23 日（月）、24 日（火）

現地研修：開催時期、開催地については選定中です。
現地研修では実習はありません。

内 容：以下のような事項に基づき、講義および実習形式で研修を行う。

- ① 油等汚染事故における行政の役割対応
- ② 油等汚染事故の基礎知識
- ③ 日本の油等流出事故時の情報体制
- ④ 水鳥の生態
- ⑤ 油汚染鳥の保護法・治療法・洗浄法
- ⑥ その他

* 鳥獣保護行政担当者向けと現場救護リーダー向けで内容が若干異なります。

会 場：環境省 水鳥救護研修センター研修室 〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2
TEL042-599-5050 FAX042-599-5051 HP <http://www.hinocatv.ne.jp/~oiled-wb/>

対 象：国・地方自治体の鳥獣行政等職員、鳥獣保護センター等職員、獣医師、
鳥獣保護員、動物園・水族館職員、水鳥救護に携わる関係者等

定 員：1 回あたり 30 名（先着順）

* 申し込みは各開催日の 2 週間前まで。定員になり次第締め切り。

参加費：無料（参加のための交通費、宿泊費等は自己負担）

申込用紙：水鳥救護研修センターホームページ (<http://www.hinocatv.ne.jp/~oiled-wb/>)、
または WRV ホームページ (<http://www.wrvj.org/>) よりダウンロードできます。

申込先：環境省 水鳥救護研修センター
〒191-0041 東京都日野市南平 2-35 TEL042-599-5050 FAX042-599-5051

研修主催：環境省

委託運営：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会（WRV）

WRV事務局 箕輪 多津 男
((公社)日本ユネスコ協会連盟・個人会員)

本年6月24日、フランスのパリで開催された UNESCO の世界遺産委員会において、小笠原諸島が、日本国内では屋久島、白神山地、そして知床に続く4番目の世界自然遺産登録地として承認されました。登録に際しましては、環境省を始めとする政府関係者や所轄する東京都を始め、何より地元の方々を中心とした、永年にわたる地道な環境保護活動への取組みや、あるいは本誌にも掲載されております(P.6～P.7)ような(社)東京都獣医師会等を中心とする野生化したネコへの対応など、様々な活動が総合的な高評価に繋がったものと考えられます。関係各位の努力に対して、改めて敬意を表するとともに、今回の登録を心より祝したいと存じます。

小笠原諸島と言えば、以前より「東洋のガラパゴス」と称されてきました通り、島固有の自然環境に包まれた独特な植物相や動物相がよく知られております。特に海棲哺乳類や魚類は別として、陸棲で在来の脊椎動物を見てみますと、哺乳類はオガサワラオオコウモリ1種のみ、爬虫類はオガサワラトカゲとミナミトリシマヤモリの2種のみ、両生類は全く生息していないという特異な状態を呈しております。また鳥類では、固有種であるメグロをはじめとして、固有亜種であるアカガシラカラスバト、オガサワラノスリ、オガサワラカワラヒワ、さらには南硫黄島でのみ繁殖が確認されているクロウミツバメなど、多くが絶滅危惧種に指定され、保護の重要性が益々高まっております。いずれにしても、昆虫をはじめとする節足動物や軟体動物等を含め、小笠原諸島にしか生息していない動物種の占める割合が大変高く、そのいずれもが希少性の高い状況にあることは間違いないと言えるでしょう。

これに対して、今当地で大きな問題となっているのが、外来種による在来種への侵害です。植物では、木本性のリウキュウマツ、モクマオウ、アカギ、ガジュマル、ギンネムや、草本性のセイロンベンケイソウ、オオバナセンダングサ等、小笠原諸島の亜熱帯気候に適応した多くの種がますます勢力を広げ、在来植物群に圧迫し続けております。また、動物のほうでは、先にも紹介された(P.6～P.7)ような野生化したネコ(ノネコ)やノヤギをはじめ、行動力の大きなクマネズミ、爆発的に増えているグリーンアノール(トカゲ)、あるいは本来は生息していないはずの両生類であるオオヒキガエルやウシガエルなど、島の植生やそこに生息する動物種を次々に捕食、あるいは排撃してしまうような外来種が跋扈する状況が顕著になってきております。

従いまして、今後はこうした外来種への対策、あるいは新たな開発事業の抑制など、小笠原諸島の自然環境とそこに存在する本来は他に類を見ないほど特異かつすぐれた生態系、あるいは生物相を、しっかりと未来へ引継いでいくことができるよう、一層の努力が求められることになるでしょう。

そうした意味で、この度の世界自然遺産への登録は、記念すべき一つの成果であると同時に、将来に向けた小笠原諸島における自然環境保全活動の、新たな出発点となるものでなければならないでしょう。現状を鑑みますと、大変なのはむしろこれからであると思われれます。あの世界に冠たる生物相を誇ると言われたガラパゴス諸島も、極端な観光地化やそれに付随する開発行為によって環境が大きく破壊され、結果、危機遺産に指定されておりました。先頃、一部の修復の動きから、ようやくその指定を解除されはしたものの、かつてと比較すると、その自然環境の状況は頗る悪化していると言わざるを得ない様相を呈しております。小笠原諸島が、ガラパゴス諸島と同じ轍を踏まないよう、強く願うばかりです。

今後は、小笠原に棲んでおられる地元の方々だけではなく、そこを訪れるすべての人々、さらには国内外のすべての人々に、世界自然遺産に指定された小笠原諸島の実情を広く知っていただき、グローバルな協力関係のもとで、いつまでもそのすぐれた自然環境や生物相が未来に受継がれていくよう、皆で努力していくことが求められることになるでしょう。そして、小笠原諸島の世界自然遺産への登録の真の意味は、まさにそこにあるものと改めて確信する次第です。



【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略）（平成23年6月1日から平成23年8月31日）

○寄付金（一般）2011.6.28 漆原 邦夫 30,000円 ○寄付金（一般）2011.7.15 白倉 豊 5,000円
○神奈川支部 2011.6.27 泊 美穂 5,000円 ○神奈川支部 2011.8.4 鈴木順子 5,000円

事務局日誌 2011.6.13～2011.9.17

=== 6月 ===

18：旭陵高校8名体験学習、「ヒナをさし餌講習会」開催（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川
24：第3回KWRサロン（『疥癬タヌキの保護から学んだこと』）開催 [神奈川支部] 対応：皆川
25：WRV ニュースレターNo.77 発行
25：横浜市立よこはま動物園（ズーラシア）・動物病院見学会 [神奈川支部] 対応：皆川
25～26：「みんなの環境展 2011～水と環境」にてパネル展示（厚木市文化会館）[神奈川支部] 対応：皆川
28：第68回日本獣医師会総会（明治記念館） 対応：新妻

=== 7月 ===

06：遠藤利明衆議院議員・政経セミナー（ANA コンチネンタルホテル） 対応：新妻
06：神奈川県野生動物リハビリテーター資格認定制度検討委員会 [神奈川支部] 対応：馬場、皆川
09：神奈川県自然環境保全センター・傷病舎施設見学会 [神奈川支部] 対応：皆川
12：JEDIC 理事会 対応：皆川
13：香川県みどり保全課職員・野生動物ボランティアセンター視察 対応：皆川
22～24,26,28：川崎地区県立高校生インターシップ実施（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川
22：吉田公一衆議院議員・東日本大震災報告会（サンライフ練馬） 対応：新妻
29：環境省水鳥救護研修センター・運営協議会 対応：新妻、大窪、皆川、鈴木
30～8/4：野生動物救護一日ボランティア実施（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川

=== 8月 ===

07：相模川釣り針釣り糸調査 [神奈川支部] 対応：皆川
11：WASVA 打合せ会（京王プラザホテル） 対応：新妻
11：第4回KWRサロン（『これであなたも上級リハビリテーター！～知っておきたい鳥の体～』）開催 [神奈川支部] 対応：皆川
14,16,20,28：『かるがものおひっこし』の紙芝居イベント（野毛山動物園）[神奈川支部] 対応：皆川
15～9/30：『海ゴミ GOME!展』（横浜市の公園 海とのふれあいセンター）[神奈川支部] 対応：皆川
22：酪農学園大学・浅川満彦教授 来訪（水鳥救護研修センター） 対応：鈴木

=== 9月 ===

10～11：神奈川県野生動物リハビリテーター（2級）養成講習会 [神奈川支部] 対応：馬場、皆川、新妻、大窪、梶ヶ谷、金坂、箕輪、鈴木
12：正岡俊夫麻布大学理事長・学長と懇談（麻布大学学長室） 対応：新妻
16：日本獣医生命科学大学・獣医学科学生対象 水鳥救護実習（水鳥救護研修センター） 対応：羽山、皆川、箕輪、鈴木
17：動臨研20周年記念・記念式典 対応：新妻

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/>（E-mail）kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 78 2011.9.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄
